

5億年地層にまつわる歴史散歩コース by 田切美智雄・中村雅利 2012. 9. 21

概要

5億年の地層と関係する史跡などをご紹介します。日立市内には5億年前のカンブリア紀の地層が郷土の歴史や文化につながっている所がたくさんあり、昔の人達のセンスが感じられます。北から南へ順に見学します(図1)。URLも参照されることをお勧めします。

1. ^{じゅうおう}十王ダムと十王パノラマ公園
2. ^{おりかさ}折笠スポーツ広場の^{やはずいし}矢筈石と^{はちまん}八幡太郎^{よしいえ}義家
3. ^{とうれんつがわ}東連津川のオマンダラ様と一の^{せき}堰
4. ^{くらかけやま}鞍掛山霊園
5. ^{たまだれ}玉簾の滝と^{ぎよくれんじ}玉簾寺
6. ^{か び れ}賀毘礼の^{たかみね}高峰と^{おいわ}御岩神社
7. ^{なんごくじゅしょう}南極寿星の^{ざぜん}座禅石
8. 日立製作所創業小屋の碑
9. 煙害を防いだ大煙突
10. ^{か し お}根本甲子男翁^{ふうりゅうもの}顕彰碑と風流物
11. ^{くはらふさのすけ}久原房之助と^{おだいらなみへい}小平浪平の^{しょうとく}頌徳碑
12. 招きモルちゃん像3体
13. ^{しゅっこんせき}宿魂石と^{おおみか}大甕神社

1. 十王ダムと十王パノラマ公園(図2)

<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/viewer/info.html?id=2168>

十王川が多賀山地から平野に流れ出る所に十王ダムがあります。1993年に完成した日立市で最も大きい多目的ダムです。十王川が山地から平野に出る場所には5億年前の地層が露出しています。5億年の地層は堅いので侵食に強く、狭い谷ができます。この谷を利用してダムサイトが作られました。ダムの下発電所そばにより露頭があります。ダム湖周辺は公園として整備されています。ダム湖には大きな噴水があり、毎正時に10分間噴水します。時期によってはライトアップも行われます。右岸の丘の上は十王パノラマ公園になっており、U

FOをイメージした展望台があります。十王パノラマ公園も石尊山^{せきそんさん}から続く5億年前の変成花崗岩^{かこう}でできています。

2. 折笠スポーツ広場の矢筈石と八幡太郎義家（図3）

折笠スポーツ広場の前庭には小木津石^{おぎつ}でできた矢筈石があります。小木津石とは5億年前の花崗岩が変成作用や風化侵食によって独特の形になったもので、庭石として珍重されています。

県北地方には八幡太郎義家に関する伝説がいくつか残っておりますが、『矢筈の石』にもその伝説が伝わっています。この石は別名『弓弦^{ゆづる}の石』と言われ、源義家が奥州征伐^{せいぼつ}に向っており、この石に弓矢を射かけて真二つに割ったという伝説が残っています。また、石が二つに割れている形が弓を張る矢筈に似ていることから、『矢筈の石』と言われていました。この石は折笠スポーツ広場ができる前は近くの水田にあった石で、スポーツ広場建設の時にここに移されたものです。

3. 東連津川のおマンダラ様と一の堰（図4と図5）

駐車スペースがありませんので、林道に入る手前の適当な場所か、林道をかなり入った駐車スペースへ駐車し、徒歩で行きます。東連津川の不動の滝から下流1kmぐらいの所で、林道から河原へ下りる細い踏み分け道を入ります。ここの河原の左岸に岩壁があり、岩壁におマンダラ様^{ぼんじ}があります。おマンダラ様は梵字5文字を刻んだ石仏です。すぐ下流には一の堰があります。現在でも古い石積みの堰の一部と水路が残っています。東連津川には18あまりの堰があり、江戸時代の中期、1741年に、一番最初に作られたのが一の堰です。この堰から水が引かれ、小木津方面の田畑^{うるお}を潤しました。このおマンダラ様は一の堰の守り神だと言われています。梵字5文字はそれぞれ、大日如来^{だいにちによらい}、阿闍如来^{あしゆく}、宝生如来^{ほうしょう}、阿弥陀如来^{あみだ}、不空成就如来^{ふくうじょうじゆ}を表すものです。雨乞^ごいに使われたのではないかとされています。現在は摩耗が激しくて、5文字は読みにくくなっていますが、貴重なものです。

4. 鞍掛山霊園（図5）

鞍掛山霊園はカンブリア紀層の山を切り開いて作ったところです。霊園の銘板がはめ込まれている大きな石は5億年前の花崗岩です。斎場の周囲に置かれている自然石もすべて5億

年前の岩石です。ここの墓地に眠る人達は、太平洋を眺めながら5億年前の地層に抱かれて眠っているようです。

5. 玉簾の滝と玉簾寺（図6）

<http://kirara-hitachi.net/chiiki/nakasato/tamadare/tamadare.htm>

玉簾の滝は5億年前の玉簾層^{たまだれ}でできています。滝はご神体なので、間近でみることはできません。玉簾の滝には、徳川光圀^{みつくに}が滝を見に来た時に滝の中に観音様を見たという伝えがあります。そのことから、1678年に玉簾寺が建てられたと伝わっています。光圀ゆかりの寺として参拝する方々が多くおります。本堂の中には木造の聖観音菩薩坐像^{しょうかんのんぼさつざぞう}が祀られており、安産の神様と言われているため、特に妊娠された女性の方々の参拝が多いということです。お参りする時は寺務所に許可をいただいてから境内に入りましょう。

6. 賀毘礼の高峰と御岩神社（図7）

<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/viewer/info.html?id=1090>

<http://www.oiwajinja.jp/>

本山トンネルの入四間側に向陽台駐車場があります。そこに駐車して、御岩山に登山します。御岩山の頂上部は5億年前のカンブリア紀層である白雲母片岩でできています。この峰には長い歴史が刻まれています。御岩山は大きな岩がたくさんある所で、古代の人々は大きな岩に神様や精霊が宿ると考え、信仰の対象にしていました。御岩山からは縄文時代の石器や土器が発掘されています。奈良時代に書かれた常陸国風土記^{ひたちのくに}久慈郡の条には賀毘礼の高峰の記述があります。この御岩山が賀毘礼の高峰と言われている。ちなみに、賀毘礼とは「雷震」^{かんぶり}のことである考えられています。平安時代になると、この大きな岩山で多くの修験者^{しゅげんじゃ}が修業をしたと言われている。山中には賀毘礼神社、御嶽神社^{みたけ}、天の岩戸大神^{あま いわとおおみかみ}などが祀られています。江戸時代には、徳川光圀が山形県の出羽三山^{でわさんざん}を勧請^{かんじょう}し、中里地区に羽黒山、月山^{がつさん}、湯殿山に相当する三つの山を指定しました。御岩山は羽黒山大権現^{だいこんげん}として指定され、その麓に御岩神社が光圀によって建てられたと伝わっています。

7. 南極寿星の座禅石（図8）

宮田川の河原に巨大な座禅石があります。上流側の道路脇に少し駐車スペースがあります。

車窓から見ることもできます。座禅石の岩石は5億年前の変成ポーフイリィの転石です。大きさは7.5m×6m×3mあり、重さは約1000トンあります。この石の上で、天童山^{たいおういん}大雄院の開祖である南極寿星禅師が座禅修行したと伝わることから、座禅石と呼ばれています。文明年間の1470年ころの話です。南極寿星は現在の神奈川県南足柄市にいましたが、布教のため日立を訪れ、田尻町^{とし}の度志^{さんろう}観音で100日間の参籠を行いました。その修行中に観音菩薩のお告げがあり、たどりついたのが宮田村^{すぎむろ}杉室の地です。現在の大雄院事務所のあるあたりです。禅師はここに大雄院を開き、この座禅石で修行したという伝えです。その後、大雄院は日立鉱山の製錬所建設のため杉室を離れ、かみね公園近くの現在の位置に移りました。

8. 日立製作所創業小屋の碑（図8）

JX 日立鉱山^{日立}の駐車場に許可を得て駐車させてもらいます。大雄院橋のそばの駐車場の山際に日立製作所創業小屋の碑があります。この碑も5億年前の花崗岩が用いられています。この場所は日立製作所発祥の地です。碑は昭和31年に建てられたものです。明治38年久原房之助が日立鉱山を本山で始めます。この場所には鉱山で使った機械を修理するための作業小屋があり、小平浪平を中心に作業していました。この小屋が後に日立製作所として独立しました。昭和31年、日立製作所内にある小平記念館脇に創業小屋が復元され、それを記念してここに碑が建てられました。

9. 煙害を防いだ大煙突（図8）

<http://www.adnet.jp/nikkei/kindai/12/>

駐車場から「大煙突」を見てください。資料の図8と現在の景色を見比べてください。日立鉱山も銅精錬の時に出る亜硫酸ガスによる環境破壊は凄まじいものでした。資料でわかるように「大煙突」ができる前の山肌はほとんど植生が失われています。日立鉱山ではこの煙害を防ぐ為にいろいろな努力をしています。最初は政府の命令によりダルマ煙突^{あほう}（別名阿呆煙突）を作りましたが、煙害は防げませんでした。この煙突は現在も「大煙突」の下の方に残っています。そこで社長の久原房之助は、周囲の山よりも高い煙突を立て、高層の大気にガスを拡散させて希薄化し、煙害を防止することとします。このようにして作られたのが「大煙突」で、高さ155.6mの世界一の高さをもちました。平成5年に根元1/3を残して倒壊しましたが、現在もその面影をしのぶことができます。「大煙突」によって亜硫酸ガスの濃度は小さくなり、植生の回復が見込めるようになったため、大規模な植林を行っています。特に亜硫酸ガスに強い樹木を選び、根気よく大規模な植林を行っています。また、煙突から10kmの圏内数カ所で常時気象観測を行い、気象によって亜硫酸ガス濃度が高い時は溶鉱炉の運転を弱くしたりして、煙害防止に努めました。その結果が現在の植生です。ここは環境保全取り組みのよい実例です。詳しくは『ふるさと日立検定公式テキストブック中級編（1000円）』

をお読みください。

10. 根本甲子男翁顕彰碑と風流物（図5と図9）

<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/viewer/info.html?id=1094>

かみね公園内の動物園出口付近に根本甲子男翁顕彰碑があります。碑がはめこまれている岩は5億年前の花崗岩です。根本甲子男翁顕彰碑について紹介します。太平洋戦争以前には神峰神社の祭礼に行われた「風流物」が各町内にありました。日立市は終戦の年に戦災に会い、「風流物」に用いる多くの山車や人形の^{だし}首^{かしら}を焼失しました。戦後「風流物」の復活が望まれ、「風流物」の焼失を残念に思った根本さんは風流物の復活に取り組み、昭和33年に1台の風流物を復活させました。その後現在のように4台が復活しました。この功績により、根本翁は平成10年に第一号の日立市名誉市民になりました。この碑はそのことを記念して、地元有志の方々によって建てられたものです。これを記念した銅板がはめ込まれているのが、5億年前のカンブリア紀花崗岩の露頭です。花崗岩はいろいろな方向を向いた割れ目が発達しており、石英脈も頻繁に入っています。これは、5億年の間に何度も変形を受けた証拠です。

なお、「風流物」は平成21年に全国にある「風流物」として初めて、ユネスコの無形文化遺産に記載されました。

11. 久原房之助と小平浪平の頌徳碑（図5と図9）

郷土博物館のすぐ上に久原房之助と小平浪平の頌徳碑があります。ここで5億年前の岩石が使われているのは石碑の基礎となっている石です。東日本大震災の地震でもビクともしませんでした。

久原房之助翁は明治38年に日立鉱山を始めた方です。小平浪平翁は日立鉱山の機械修理工場からスタートして、その後日立製作所を創業した方です。お二人とも日立市の発展の礎を築いた方です。この碑は昭和17年に市役所新庁舎落成式の時に、現在の市庁舎のそばに建てられたのですが、戦後、かみね公園を整備した折に、この場所に移されました。この顕彰碑の^{きごう}揮毫は戦前の思想家の^{とくとみそほう}徳富蘇峰によるものです。碑の周囲にある円は煙害防止のため大正4年に造られた「大煙突」の下底の内径を表しています。「大煙突」は当時世界一の高さを誇り、銅鉱石の精錬で発生する煙害の防止に大変効果を挙げました。平成5年に根元から1/3を残して倒壊しました。昭和44年に出版された新田次郎の『ある町の高い煙突』の主題となっています。

12. 招きモルちゃん像3体（図9）

カンブリア紀岩石を利用した変わり種があります。日立市中心部商店街のぎんざモール、まいモール、パティオモールの3カ所に、それぞれ1体の招きモルちゃん石像が設置されています。これらの石像は2011年2月に5億年前の花崗岩を用いて作られましたが、石の年齢

をとり、年齢5億600万歳とされています。宿魂石と同じパワーストーンで作られています。高さは40cmで、それぞれ、「えにし」、「大盤振る舞い」、「開運招福」の願いが込められています。お買い物や散策の折にご覧下さい。

石像はピカピカに磨かれており、カンブリア紀花崗岩の様子がよくわかります。複雑な模様は5億年間の長い歴史を表しています。

13. 宿魂石と大甕神社（図10）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/天津甕星>

大甕神社は多賀山地の一番南のはしにあり、カンブリア紀の花崗岩の岩山の上に建っています。この花崗岩は国道6号を越えて日立研究所の方に続いています。『日本書記』の中に大甕神社の大岩にまつわる伝承があり、日本列島のルーツを語るカンブリア紀花崗岩と神代^{かみよ}の日本ができる時の話がつながっています。大甕神社の創建にまつわる話です。

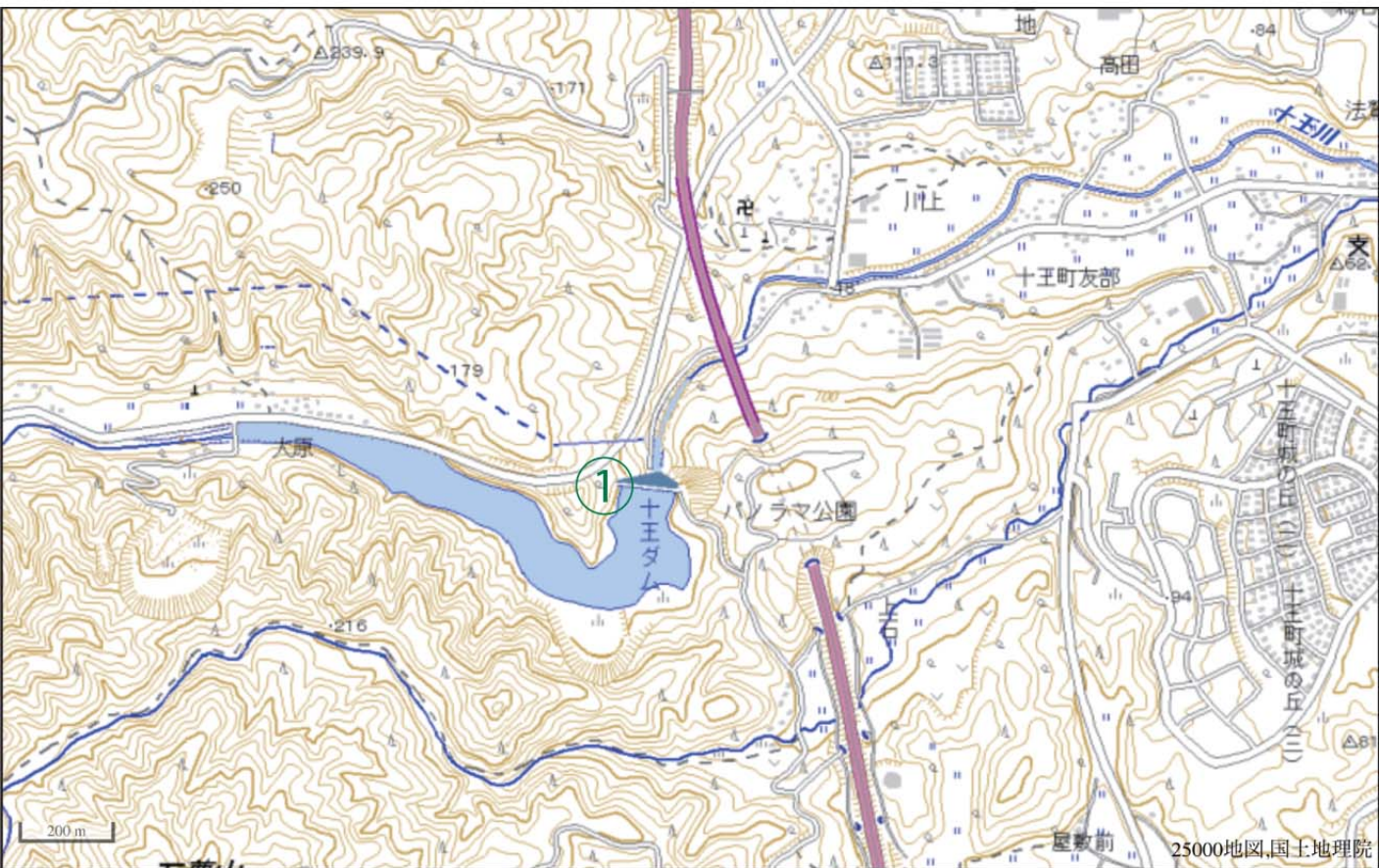
この大岩は宿魂石と言います。また、別名『香香背男^{かがせお}の石』とも呼ばれます。神代の昔、香香背男という神が石名坂地方を支配していました。少し悪さをする神とのことです。それで、この地方を平定するために香香背男を退治しようと、中央から武葉槌^{たけはつちのみこと}命が派遣されます。ところが香香背男は大岩になって抵抗しました。そこで武葉槌命は金の沓^{くつ}をはいて蹴^け飛ばし、香香背男の退治に成功しました。その時、この大岩には香香背男の魂が宿ったと伝えられており、宿魂石と呼ばれるようになりました。その後、ここに大甕神社が建てられ、倭文^{しづ}の神が祀られました。大甕神社がパワースポットと呼ばれている理由がわかるような気がします。

これで歴史散策コースは終了です。



小縮尺図(200000),国土地理院

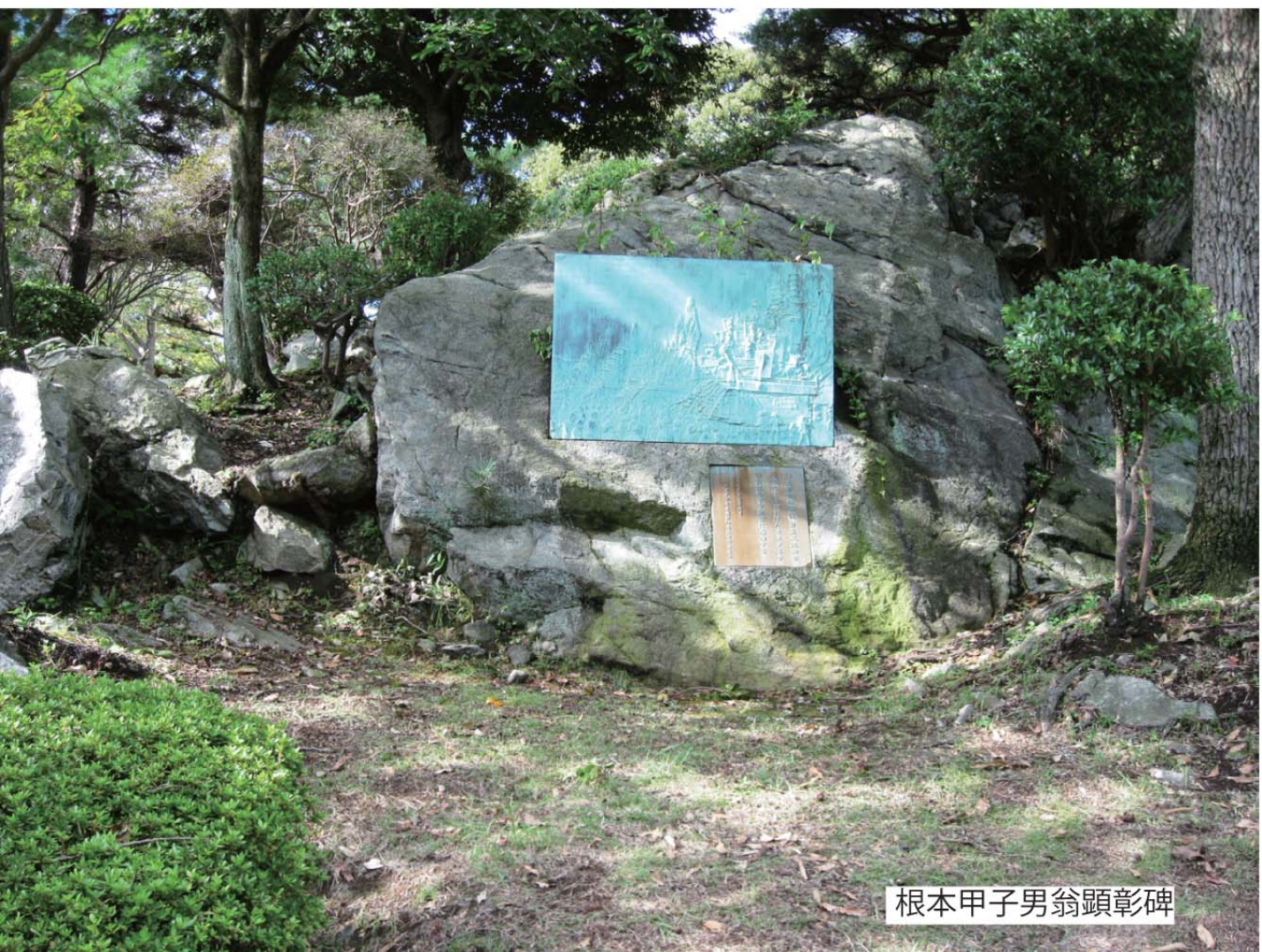
図2





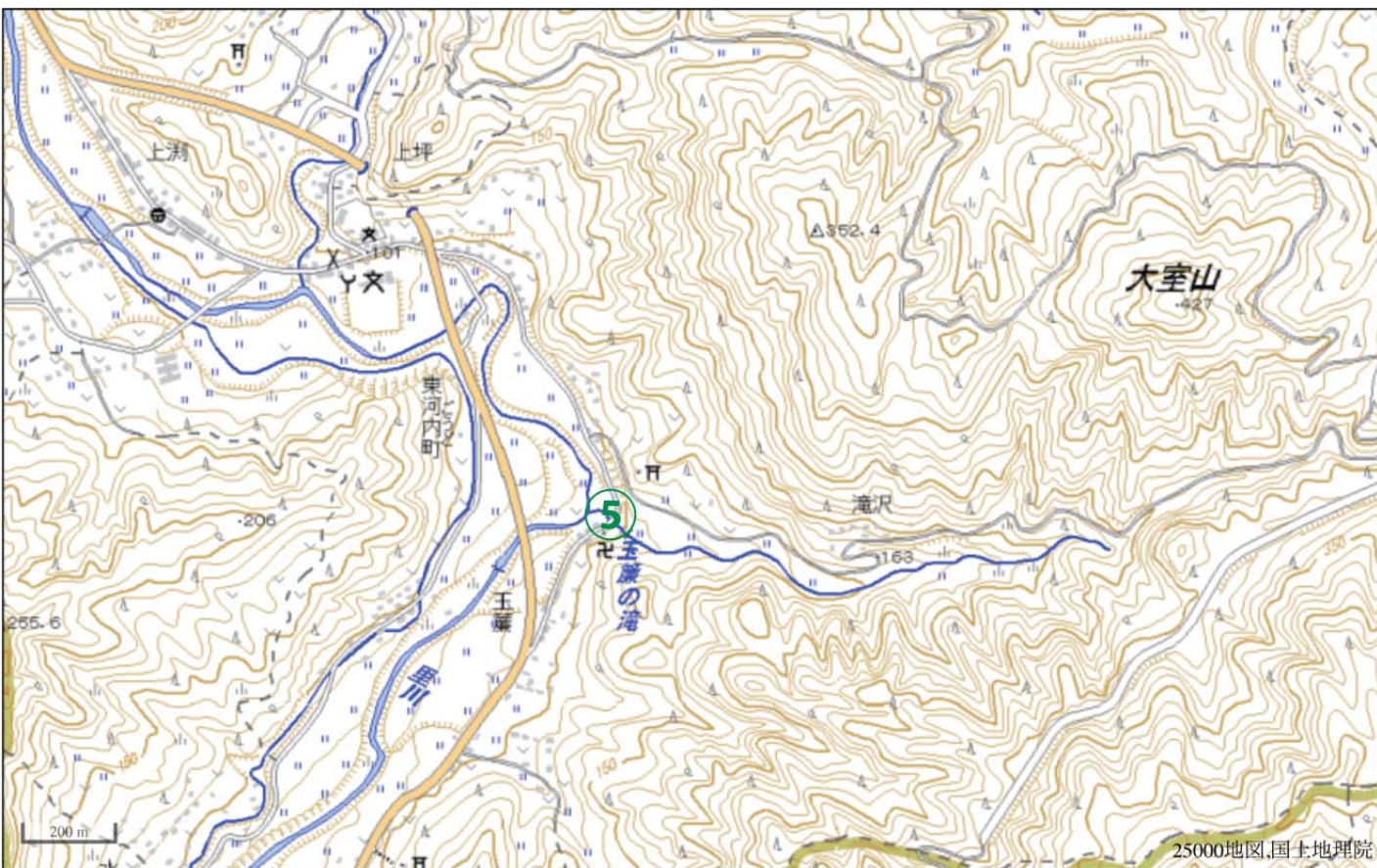
オマンダラ様





根本甲子男翁顕彰碑

図6



玉簾の滝



玉簾寺

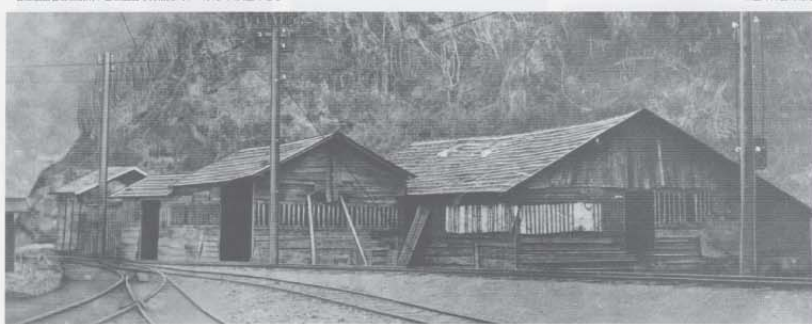
図 7



図 8



大正 4 年ごろの
大雄院製錬所



明治 43 年ごろの
日立製作所創業小屋

图 9

